



オートシェイプを使ったイラスト作成

青柳 智子

I. はじめに

図書館業務においては、さまざまな情報が提供されている。その提供する方法は、文字による文書だけでなく、画像や映像を使ったイラストもある。そこで本稿では、マイクロソフト社の“Office”に搭載されているオートシェイプ機能を活用して、任意のイラストを作成し、よりわかりやすい情報の表現と提供を可能にした事例を報告する。とくに、実際に図書室の利用者から依頼のあった事例を紹介しながら、オートシェイプ機能の技術をより自由に活用する方法を考えてみたい。

II. 報告の背景

まずは、本稿でこのような事例を取り上げるに至った背景について述べておきたい。

そもそも、このような事例が発生し、イラストを作成することになったのは、当院の職員からの依頼がきっかけであった。その依頼というのは、病院内で配布・使用される冊子の改訂がおこなわれるのにあたって、現行では手書きになっているイラストに代わる、新しい画像データを探してほしいというものであった。

依頼を受けた当初は、無料イラストサイト「イラストわんパグ」¹⁾ や、フリー素材集サイト「いらすとや」²⁾ など、インターネット上に公開されていて、一定の条件のもとで自由に使ってよいと認められているような、既成のイラストから選べば良いと考えていた。ところが、実際に探してみると、依頼された内容にふさわしい

画像データがなかなか見つからなかった。既成のイラストからは発見できないことから、別の方法で画像データを用意することを検討せざるを得なくなった。その結果、“Office”のオートシェイプ機能を使って、筆者自身が依頼者のもとにに応じたイラストを作図することになったのである。

III. オートシェイプの機能

すでに周知のことと思われるが、ここでは“Office”のオートシェイプ機能について簡単に紹介しておきたい。

オートシェイプとは、図形描画機能のひとつで、線、矢印、吹き出しなどを、文書内に簡単に描き出すことができる機能である。この機能を使うことによって、文書の要点整理やフローチャートなどを作ることが可能になる。またそれにともなって、文書の内容がわかりやすく伝えられるようになり、読み手にたいして情報を効果的に伝えることができるのである。通常われわれがこの機能を使うときには、あらかじめこの“Office”に備わっている単純な図形を文書内に描いて、それを組み合わせることが多いであろう。これにたいして本稿では、オートシェイプ機能の中にある図形を応用的に使用して、より自由に組み合わせることによってイラストを作成した事例を紹介することにする。

IV. イラストの作成事例

ここでは、筆者が実際に依頼された事例を取り上げて、説明したい。

1. 依頼されたイラスト

まず、職員から依頼を受けたイラストとは、「腹式呼吸をする人物」であった。これまで使用されてきたのは手書きのイラスト（図1）だったのだが、依頼は、これと同じような画像データがないか、探してほしいというものであった。

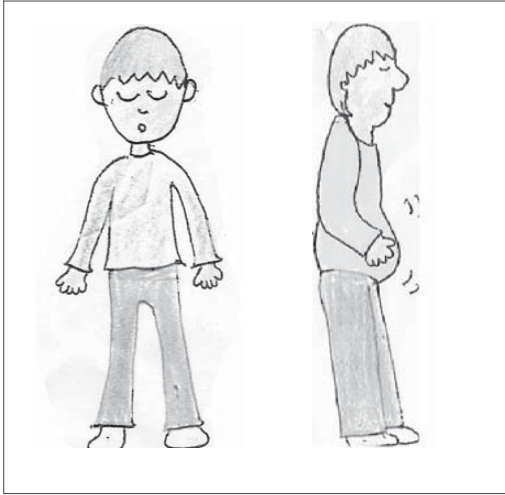


図1 腹式呼吸をする人（手書き）

2. 作成の手順

次に、オートシェイプ機能によってイラストを作成した実際の手順について紹介する。

依頼元の手書きの絵をもとにして、イラスト化するための下絵の作成をおこなった（図2）。これによって、実際の完成を想定しつつ、具体

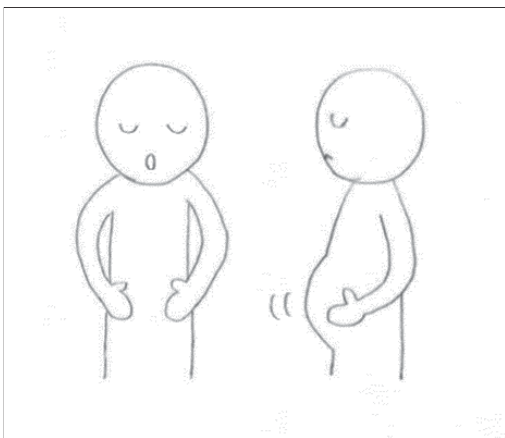


図2 イラスト化するための下絵

的にどのようなデータ素材を用いればよいかの見当をつけることができる。なお、今回の依頼では手書きの絵であったが、写真などがあれば、それも同じように作業することができると思われる。

続いて、できあがった下絵をもとにして、データ素材となるオートシェイプの図形の中から、イラストとして適切な素材を選んでゆく（図3）。ここではまだ、図形そのままの形であり、実際のイラストとは大きくかけ離れた形状のものもあるが、その後の修正作業のことも見越して、図形の選択をおこなう。

さらに、選択した図形を組み合わせて、大まかではあるがイメージに合ったイラストになるように配置する。この大まかな組み合わせができあがった上で、今度は依頼されたイラストのイメージに適合するように、細かな形状を修正したり、さらに図形を加えたりする。このようにして、徐々にイメージどおりのイラストに仕上げてゆく（図4）。

最後に、すべての図形が後でばらばらにならないように、「グループ化」をおこなう。これによってイラストは完成するのである（図5）。

以上のように、“Office”のオートシェイプ機能を使うことによって、単純な図形だけでなく、少し複雑な形態のイラストを作成することができる。実際に、依頼された冊子はこのように改訂された（図6）。依頼を受ける前の手書きの冊子であったときには、院内で利用されるだけに

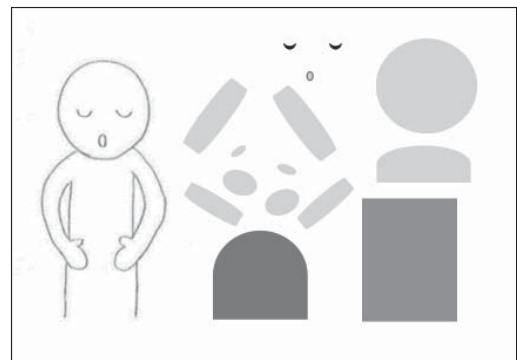


図3 素材を選ぶ

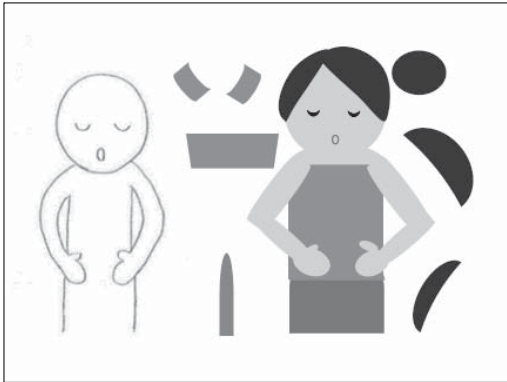


図4 細かな修正を加える

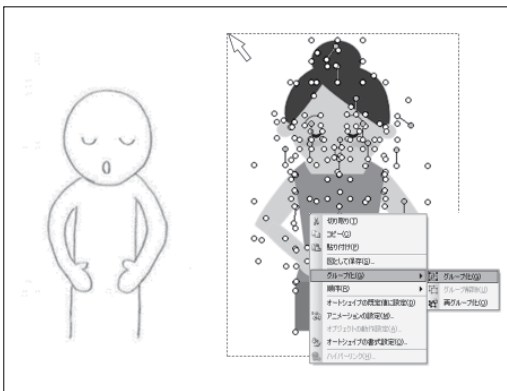


図5 グループ化して完成

とどまっていたのが、改訂後の冊子は、近隣の病院でも使用されることになったと伺っている。

V. 活用の可能性

ところで、オートシェイプ機能の活用法は、ここで取り上げた事例だけにとどまるものではない。図書館業務に携わる者としては、日常的な業務や、利用環境の整備にも応用できると思われる。そこでとくに効果があると考えられるのは、利用者に向けたメッセージや案内である。以下では、その活用方法について、いくつかの事例を取り上げておきたい。

1. 案内用のイラスト

図書館と言えば、館内のさまざまな掲示物や印刷物を作成する。その場合に、イラストを活用することができるであろう。たとえば、図書館で頻繁に用いられるものとして、本のイラストを挙げることができる。また、季節を表す植物や行事のイラストを用いれば、利用者の目に留まりやすくなる、という効果を生むことができる。さらに、警告や注意を促す禁止マークなども、既成のイラストを用いるだけでなく、オリジナルのものを作成することができるのである(図7)。

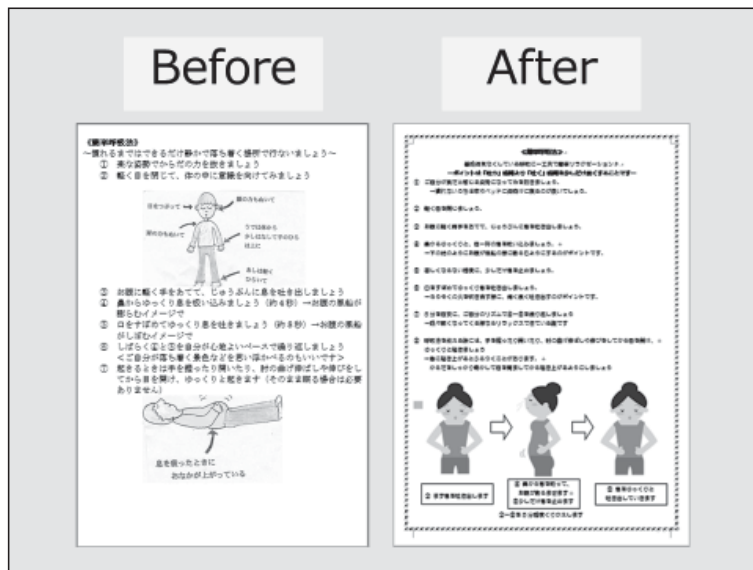


図6 冊子の改訂前と改訂後



図7 案内に役立つイラスト



図9 人物の表情2

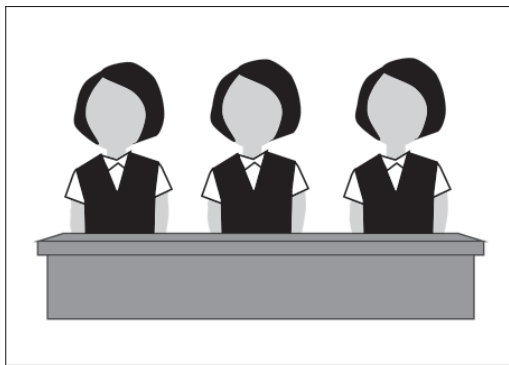


図8 人物の表情1



図10 企画展示で使用した例

2. 人物の表情のバリエーション

利用者に向けた案内を用意するにあたっては、表情を持った人物が必要になることがある。既成のイラストでは、限られた種類の表情にとどまってしまうが、イラストを応用的に用いれば、その選択肢を増やすことができる。たとえば、表情を入れていない人物のイラストを基本形として作成しておき（図8）、随時表情を入れられるようにしておく。基本形のイラストには表情がないので、それを必要になる表情に変えて作成すれば、場面に応じて、より柔軟で多様な表情の人物に仕上げることができるのである（図9、10）。

3. 地図の作成

このほかにも、地図を作成する際にオートシェイプ機能を活用すれば、非常に便利である。たとえば、著者が所属している三菱京都病院付

近の地図も、イラストを用いて作成できる（図11）。地図というのは場所ごとに異なるので、作成されるものはほとんどすべてオリジナルの内容になると言ってよい。それぞれ異なる内容となる地図の特性からして、イラストを自由に作成したり組み合わせたりすることは非常に有用である。イラスト作成は、病院や図書館近辺の利用者向け案内にも役立つのである。前述で例示した地図の場合には、建物や木のイラストは、サイト「いらすとや」で配布されている素材を使用した。この素材は、個人、法人、商用、非商用を問わず、無料で利用することができる。このような建物や木のイラストの場合には、比較的単純な図形で作成することができる。それゆえ、オリジナルのイラストを作成することもできるであろう。

このように、文字情報だけで何かを伝えるだ



図 11 三菱京都病院周辺地図の例

けでなく、こちらの伝えたいことを図やイラストにすることで、利用者はそれを直感的に理解することができるのである。

VI. おわりに

本稿では、“Office”のオートシェイプ機能によるイラスト作成技術を工夫した事例を紹介した。このことから、オートシェイプ機能がイラスト作成の可能性を大きく広げるものだということが明らかとなった。さらに、この機能をうまく活用しさえすれば、図書館業務においても、さまざまな案内や掲示物などで、必要なイラストを自由に作成できる。今後もこのような技術を用いて、図書館業務での応用に役立てたい。

謝 辞

本稿は、近畿病院図書館協議会第136回研修会(2015年3月19日、於キャンパスプラザ京都)における事例・研究報告をもとにしている。報告および本稿執筆にあたっては、石切生喜病院図書館の松尾知香氏にご協力いただいた。この場を借りて深謝申し上げたい。

参考文献

- 1) イラストわんぱぐ. 無料イラスト・春・夏・秋・冬・イラストわんぱぐ. [引用 2015-11-25].
<http://www.wanpug.com/>
- 2) いらすとや. かわいいフリー素材集 いらすとや. [引用 2015-11-25].
<http://www.irasutoya.com/>